



**日本青年会議所 環境部会 創立10周年記念誌**

発行:2023年12月  
 発行者:日本青年会議所 環境部会  
 10周年記念誌製作実行委員会:早野 社(JCI江南)・中山 拓海(JCIむさし府中)  
 デザイン・印刷:有限会社功進包装



日本青年会議所 環境部会  
**創立10周年記念誌**  
 Junior Chamber International Japan

SINCE 2011

# Kankyobukai 10th anniversary



第12代部会長  
**早野 社**(JCI江南)  
 HAYANO So

第13代部会長  
**川淵 公太**(JCI高知)  
 KAWABUCHI Kouta

2023

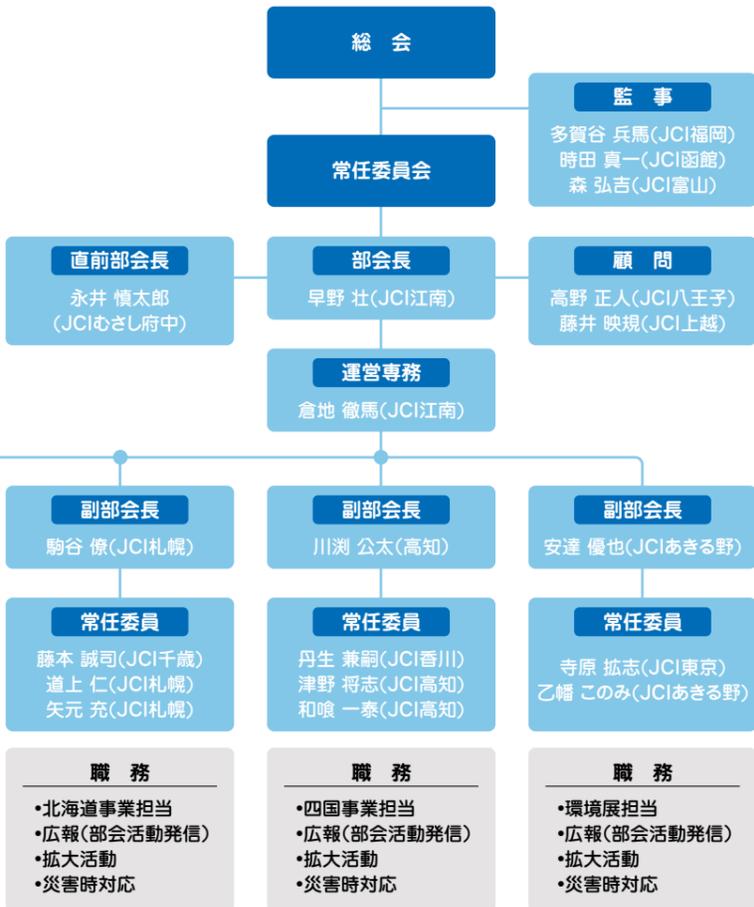
2024

二〇二一年十一月三〇日



## 日本青年会議所環境部会 設立趣意書

これからの日本は、経済面について、世界に対して環境分野でリードしていく必要があり、環境面について、地球温暖化に代表される異常気象現象や国内の環境リスクを克服し、我々責任世代が中心となって、より良い自然環境を後世に引き継ぐ責務がある。このために、我々環境分野に携わる責任世代の持つ個性や英知、技術を結集し、互いに研鑽する機会が必要と考える。よって、ここに日本青年会議所環境部会を設立し、広く会員を募る次第である。



## より良い自然環境を後世に残すために



第12代部会長 早野 壮(JCI江南)

二〇二一年十一月三〇日の設立以来、私たち日本青年会議所環境部会は、環境立国日本の実現に向け、世界に対して環境分野でリードし、より良い自然環境を後世に引き継ぐべく運動を行ってきました。この十年余りの間に会員数は一五〇名を超え、年を重ねるごとに強靱となっていくた運動の展開とともに、実り多い交流と連携が生まれたことに、改めて会員の皆様に深く感謝の意を表します。

コロナ禍により、創立一〇周年記念式典の開催は叶いませんでしたが、その分、全歴代部会長と座談会を企画することで、記念誌を特別なものと昇華させることができました。私はこの冊子が、我々の過去の歩みを振り返り、未来への新たな一歩を踏み出すための貴重な資料となることを自負しております。

私たちはこれからも、環境への使命感と情熱を胸に歩みを進めます。皆様の一層のご支援とご協力を引き続きお願い申し上げます。

## 持続可能な社会を目指す仲間として

Congratulations



環境大臣 伊藤 信太郎

日本青年会議所環境部会が創立10周年を迎え、環境部会の活動が進められていることを、環境大臣として大変心強く感じています。

ネットゼロの実現は世界の課題。環境省では、その実現には「地域」からの取組が重要だと考え、脱炭素と地域課題の同時解決を目指す「地域脱炭素」を推進しています。また、地域資源を活かして地域の課題解決を目指す「地域循環共生圏」の取組も広がっています。こうした取組の鍵となるのは

地域で頑張る一人ひとりの行動、企業一社一社の努力です。皆さんの取組が同心円状に、地域の課題解決や我が国の経済社会の在り方、そして地球を守ることに繋がります。

日本青年会議所と環境省は「SDGsパートナー宣言」を結んだパートナー。SDGsの達成もネットゼロの実現もチャレンジングな課題ですが、これからも、持続可能な社会を目指す仲間として、ともに歩みを進めましょう。

## 10年間の活動に心より敬意を表します

Congratulations



日本青年会議所 第72代会頭 麻生 将豊(JCI福岡)

創立10周年、誠におめでとうございます。長きにわたり、人財育成と社業を通じた日本の環境保全に取り組んでこられたことに、心より敬意を表します。

世界はアフターコロナに移行しつつありますが、未だ、不安定な経済状況や世界紛争による影響は大きく、夢を描くことすら難しいと感じる人も多いのではないのでしょうか。しかしながら、設立より諸先輩方が築かれた歴史と伝統を紡いでこられた環境

部会の皆様は、業界の先頭に立ち、持続可能な企業の創出を目指し邁進されていることと存じます。

日本青年会議所といたしましても、全国各地で夢を描く仲間とともに運動を展開し、日本の底力を世界へ発信してまいります。引き続き本会に対し、深いご理解、ご支援を賜りますようお願いいたします。結びに、環境部会のさらなるご発展を心よりご祈念申し上げます。

## これからも各業種別部会を触発してください

Congratulations



2023年度 業種別部会連絡会議議長 澤田 純平(JCI東京)

貴部会は2011年の設立以来、「環境」をキーワードに多様な活動とビジネスマッチングの試作を通じて、環境保全の重要性を広め、美しい地球の未来を築くための重要な役割を果たしてこられました。貴部会の熱心な活動と情熱が、業種別部会連絡会議にも大きな刺激となり、所属する41部会の向上に大きく寄与していただきました。

また、本年度は早野壮部会長に業種別部会連絡

会議の筆頭副議長を務めていただきました。非常に熱心に各種会議・定例会にご参加いただいたことで、41部会約13,000名に素晴らしい影響を与えてくださいました。本当にありがとうございました。

次の10年に向けて、貴部会のさらなる成功と成長を心より願っております。今後も日本へ、そして世界へ大きな影響を与え続けることを心よりご祈念申し上げます。

# 歴代部会長座談会

今、環境部会の創世記を語る。

司会／第12代 早野 社



## 2011-2016

環境部会の歴代部会長が集結。部会が生まれ、その基盤がつくられてきた経緯を知る初代から第5代までの部会長が歴史を振り返り、環境部会が存在することの意味や意義についても本音を明かした。



— 環境部会は2011年11月30日に設立総会を開催して、40名ほどのメンバーでスタートしました。今回の座談会に参加している笹島初代、恩田歴代、齋藤歴代に加えて、糟谷敏美先輩(JCI日野)の4名が発起人となっています。まずは、この部会が設立された経緯から、あらためて聞かせてください。

**初代 笹島潤也(以下、笹島)**：当時、「廃棄物処理」「IT」「葬儀関係」の仕事をしているメンバーが青年会議所に増えているという状況があったんですね。2010年度の業種別部会連絡会議の議長から「そうした人たち

の受け皿となるような部会をつくりたい。でも、担い手がない！」という話を聞いたのが、設立の契機となりました。

**第5代 恩田健次(以下、恩田)**：実際に設立に向けて動き出したのは、翌年からです。業種別部会連絡会議の議長と笹島さんと自分の3人で会って話をしたのを覚えています。

**笹島**：そうして動き出した矢先に東日本大地震があつて……。発災直後から全国各地の青年会議所が復旧のためのアクションを起こすなか、部会設立に向けての行動は、先延ばしになる状況が続きました。発起人のひとりになってくれた齋藤さんは、本当に大変だったと思います。震災が起きた年のJCI仙台の理事長を務めていたのですから。

**第4代 齋藤孝志(以下、齋藤)**：発災後から本当に忙しくて大変でした。それでも「なんとか年内には！」という想いを共有して、11月30日の設立総会にこぎつくことができました。廃棄



物処理業だけでなく、再生エネルギー関連の仕事をしている人も入会していただき、高い志のもとで「環境部会」としてスタートできたのです。

**笹島**：その私たちの気概は設立趣意書にまとめたとおりです。部会の設立総会にまでこぎつけたときのことを振り返ると、いまだにうずすらと涙が出てきます……。事実上の初年度となった2012年度は、私が部会長に就任して組織の拡充を旨とした活動を行っていきました。まだまだ日本の経済・社会が混沌としているなかで、部会の存在を周知して人を集めるところから地道に始めています。

**恩田**：サマコンに出展したとき、ブースに立ったのは自分とJCI日野の糟谷さんだけでした。まさに地道な拡大活動からのスタートでしたね。



創立総会(2011)

— 2013年度になり、第2代部会長に就任したのは、紺野歴代ですね。

**第2代 紺野琢生(以下、紺野)**：私は2011年に環境部会が立ち上がるという話を笹島さんから聞いて、二つ返事で入会しています。しかし、設立総会に間に合わず、懇親会からの参加になったことが今でも悔やまれます(笑)。部会長を引き継いだとき、名簿に記載されていた部会員のなかで実際に活動しているのは30名ほどという状況でした。3月に通常総会、5月に環境展見学、7月にサマコンブース出展、10月に全国大会奈良大会での部会ナイト、11月に研修事業と臨時総会を開催し、Facebookや広報誌も活用しながら拡大に務めた結果、年度末にはアクティブな部会員を70名超にまで増やすことができました。ご協力いただいた部会員各位に感謝しています。



第3代部会長は徳川家光……？

**笹島**：2代目までは、そのような感じでした。環境部会って、イメージ的には徳川幕府と重なるんですね。家康がとりあえず幕府を開き、秀忠がつなぎ、3代目の家光でようやく花が開く

という……。環境部会における家光が藤井さんです(笑)。

**紺野**：藤井さんの入会は2013年でしたね。3月の総会に初めて来てくださり、銀座の中華料理屋で話をしたことを覚えています。

**齋藤**：2009年にJCI日本で委員長もされていたからね、藤井さんは、JC活動をきちんとやってきた人は、部会もきちんとできる。この法則は間違いないから。

**紺野**：だから、「3代目の部会長を藤井さんをお願いしたい！」ということで、誕生日に上越までお酒を持って口説きに行きましたよ。その甲斐あって、藤井部会長時代に今に続く環境部会の活動の形をつくっていただきました。ありがとうございました(笑)。

**第3代 藤井浩幸(以下、藤井)**：「いや、入会して2年目で部会長はないでしょ(笑)。ほかに人材がいるでしょ！」って言ったんですけどね、上越の寿司屋で……。

**笹島**：こちらとしては、「次は絶対に藤井さんでいきましょう！」という想いでしたからね。

**紺野**：絶対でした(笑)。

— それでは、3代目の活動内容を教

えてください。

**藤井**：全国を区割にして、それぞれに長を配置してといった感じで、運営体制の確立を図りました。もちろん、会員拡大にも努めました。そして、会員研修の実施に力を入れましたね。2014年度は「JAYCEEの和から環境の環(わ)へ」というスローガンを掲げて、「運営体制の確立」「会員拡大」「会員研修の実施」の3つを基軸に活動していきました。

— 会員の拡大は、どのように行われていったのでしょうか。

**藤井**：「エリアを訪ねて会員を拡大していこう。行かないことには環境部会のことをわかってもらえないだろう」という考えのもと、区割にしたエリアを自分たちが直接訪問していきました。可能な限り、定例会という形式で全国を訪ねましたね。

**笹島**：私が藤井さんのことを「流石だな！」と思ったのは、事務局を上越の人間＝自分の後輩たちでまとめたところ。その事務局の発信力がすごかった。

**藤井**：上越には、環境に優しい印刷屋

“設立趣意書に込めた想いは今の環境部会にもしっかりと受け継がれています”(笹島)

“2年目の課題としたのは産声を上げたばかりの部会をいかにしてアクティブにしていけるか”(紺野)





通常総会(2013)

がいたりしましたからね。彼らのおかげです。

**笹島**：上越支部からは、今でも環境部会に何人いるかわからないくらいたくさんメンバーが参加していますね。

**藤井**：25人です！

**齋藤**：2014年12月の名簿を見ると、環境部会は91人まで拡大しています。やはり、藤井さんが始めた全国行脚の威力は大きかったのではないのでしょうか。

**恩田**：2014年には海外でも活動していますよね。

**藤井**：世界会議がドイツのライブチヒであって、そのときに環境部会の有志で視察を行いました。すべてが循環エネルギーで動いているという村があったんですよ。ドイツは環境先進国なので、大変に勉強になりました。



### 家網と綱吉も抜群の働きを見せる

—ありがとうございます。3代目の家光時代に環境部会が大きく躍進したことがよくわかりました。4代目の齋藤歴代は、どのような流れがあって部会長になられたのでしょうか。

**齋藤**：私はJCI仙台で理事長を務めた後、2012年に宮城ブロック協議会の会長を務めて、2015年に環境部会の第4代部会長になったわけですが、その年が自分の卒業年度でもありま

した。JAYCEEとしての活動の仕上げとして部会長を務めさせていただいたこととなります。とはいえ、自分が部会長のバトンを受け継いだときには、もうほとんどの流れができていました。当時は副会長が各地にいて、その各地で研修会を企画するなどしました。

—前年度のドイツに続いて、海外ではどこでどのような研修が行われたのでしょうか。

**笹島**：2015年はマレーシアだよ。ジョホールバルミッション。

**齋藤**：環境部会のメンバーでジョホールバルに移住している人がいて、そのツテを使って現地にあるプラスチックのリサイクル施設などを視察しました。全国各地での研修会や海外でのミッションを通してメンバーの懇親が深まり、部会の絆が強固になっていったのが4年目だと自負しています。

**笹島**：それは、間違いないね。いろいろなことが整ってきて、本当にみんなが仲良くなっていったのが4年目ですね。**齋藤**：それと、次の5周年に向けての準備もありました。

**恩田**：環境部会の発起人なのに私がこれまで部会長を務めてこなかったのは、最初から5周年での就任を考えていたからです。5周年の記念式典を行うことも決めていました。記念式典と記念講演と懇親会は、仙台で開催しています。震災からの復興、そして環境部会の成長……。このふたつを見つめ直すにあたり、仙台こそが最適地でした。



ドイツのライブチヒ視察(2014)

—5年目の活動内容としては、どのような前進が見られたのでしょうか。

**恩田**：まず、「JAYCEEがつくる本気のサステナブル」というスローガンを掲げました。そして、海外視察がクライマックスという感じだった前年までの活動から前進するべく、「これからはアクションプランをつくらう！」という方針を打ち出しました。さらには、スローガンを具現化するべく、サステナブル担当委員会を立ち上げています。海外視察は、あえて前年に続いてジョホールバルに出かけました。「2年連続で行くことにより、何か見えてくるものがあるだろう」と考えたからです。

**紺野**：現地との交流をさらに深めながら、みんなで「ジョホールバル海外ビジネスセミナー」を受けたりしましたね。

**齋藤**：日本人がアジア市場に進出する意義や、海外に進出するための仕組みづくりなどを学びました。

**笹島**：2016年の第1回総会は福岡で開催しましたが、そのときには森林管理の研究者にも講師として登壇していただくなど、「JAYCEEがつくる本気のサステナブル」というスローガのもとで、5年目は従来よりも視野を広げて活動していきました。

—5年目には、部会員の数は何人にもまで拡大していったのでしょうか。

**恩田**：4年目で90人を超えて、5年目



マレーシアのジョホールバル視察(2015)

で120人を達成しています。部会員の数を拡大するだけではなく、我々の視野そのもの、活動そのものの範囲も拡大できたのが5年目だったと総括できるでしょう。



### まさに「和」と「環」を生み出してきた

—ここまでの5年間の流れを追っていくと、家康から家光まで3世代に加えて第4代の家綱、第5代の綱吉にもそれぞれに働きがあり、そのすべてが積み重なることで環境部会の基盤が作られていったのだと理解できました。環境部会の創世記は、素晴らしい將軍記でもあったわけですね。それでは、みなさんが大切に育ててきた環境部会は、みなさんの社業にどのような影響をもたらしてきたのかについても教えてください。また、社業に与えた影響のほかにも、環境部会ならではの存在意義として考えられることを教えてください。

**齋藤**：最近もよく仕事の電話がかかっています。例えば、「名古屋で仕事をしている設備会社が今度は東北の仕事を受託したから、齋藤さんのほうで手伝ってくれない？」とか。環境部会では、どこかのエリアで何かがあるときに誰かにやってもらうという強固なつながりが全国的にできていますからね。

**笹島**：これは私の持論ですが、部会は「修練」「奉仕」「友情」の先にある「ビジネス連携の礎」であり、「JC活動を頑張ってきた人だからこそ得られる特別なボーナス」だと思っています。LOMや出向先での活動を粗末にすることなく務めることが大前提であり、それができた人にものみ与えられるボーナスだと。

**齋藤**：そのとおりです。環境部会のメンバーは顔が知れて、志が知れてる関係性ですからね。何かあったときにネットで検索してから「初めまして！」になる関係性とは違うわけです。その



“今も昔も拡大はJC活動の要です。まずは自身の地域である上越から” (藤井)

“環境問題に深くコミットする覚悟をもって5周年記念式典は被災地仙台で” (恩田)

“環境部会の初の海外視察はドイツのライブチヒでしたね” (齋藤)

安心の網が全国に広がっていることの意味や意義は大変に深く、大きいですよ。JC活動を頑張り、その温度感でビジネスの話もできる……。普通に生きていたら得難い仲間がいるのが環境部会です。

**笹島**：元気で楽しい仲間が全国にいるということが、何にも替え難い財産だと私も思っています。JCI東京を卒業して私は50歳近くになりましたが、今でも環境部会の仲間とは仕事も遊びも和気あいあいとやれていますからね。あの震災の年に頑張った環境部会を立ち上げて本当によかった……。環境部会は、これまでに人をつくり、リーダーを育ててきたと自負しているところ。私が初代を務めたときから、部会長は現役メンバーから出すと決めています。今の現役メンバーが、また次の世代を育ててくれたらと思いますね。

**紺野**：「次のキングメイキングをしなければ！」という言葉が若い人たちの口から出るようになってきました。それがうれしいですね。

**恩田**：環境部会は確かに人をつくり、リーダーを育ててきました。環境部会を経験したからこそ、LOMでもいっそう頑張ろうとする人間が増えたことは事実だと思います。



5周年記念式典(2016)

**齋藤**：環境部会でのコミュニケーションがあったからこそ、LOMで専務理事をやってみたり、地区やブロックで委員長をやってみたりといった人間も生まれています。

**藤井**：そのようにして環境部会から青年会議所に還元できたことも、たくさんあると思います。これって、素晴らしいサイクルですよ。JAYCEEの和から環境の環(わ)へ。そして、環境の環(わ)からJAYCEEの和へ。環境部会は本当にいろんな「和」と「環」を生み出してきたのだと誇りに思います。

# 2011-2016



# 2017-2022

## 歴代 部 会 長 座 談 会

部会長就任話は突然に……

司会／第12代 早野 壮

予期していなかった出来事にいかに  
応じていくか。そこで現れるのが人間  
性である。環境部会の歴代部会長は、  
突然に部会長就任を命じられても、コ  
ロナ禍で身動きが取れなくなろうと  
も、自身のベストを尽くしてきた。



——6代目の部会長を務められた三峰  
歴代は、どのような経緯で環境部会に  
入られたのでしょうか。

第6代 三峰誠植(以下、三峰):2013



環境庁事務次官を招いた総会(2017)

年に横浜で開催されたサマコンで環  
境部会の勧誘ブース前を通りがかり、  
2代目の紺野さんに中華料理店での  
懇親会に誘われたのがきっかけです  
ね。そのときは、部会設立時からの  
メンバーが飲めや、食べやでものすご  
い盛り上がりを見せていて……。当時  
の私は、青年会議所に入ってまだ間も  
ないころでした。LOMでは話をする  
機会がない各地のメンバーと交流す  
るなかで、「こんな世界もあるのか」  
と……。そして、ビジネスの話ができて  
楽しかったんですね。それが、部会と  
の出会いです。

——6代目の活動期間におけるトピッ  
クのなかでも、特に思い出深いものを  
教えてください。

三峰:記念式典を開催した5周年にあ  
る種の達成感があり、皆さんのモチ  
ベーションが少し低下しているなか  
で、私は6代目の部会長に就任してい  
ます。今でも変わらないのですが、私  
は当時から「環境部会じゃないとでき



ないことをしたい」「環境部会じゃな  
いと会えない人に会いたい、話を聞か  
たい」という想いがありました。その想  
いの発露として、東京で総会を開く際  
に環境省の事務次官にお越しいただ  
き、講演していただきました。食品ロ  
スの問題や太陽光発電の話などを環  
境省の方ならではの観点でお話した  
だき、立ち見が出るほどの大盛況とな  
っています。

第7代 多賀谷兵馬(以下、多賀谷):そ  
のとき、私は副会長に就いていて環  
境省の方との折衝を担当しています。  
私が環境部会のイベントに初めて参



通常総会(2018)

加したのは、その前年に開催された5  
周年記念式典でした。式典後の懇親会  
の場で、恩田さんに声をかけていただ  
いたことは今でも印象深く脳裏に刻  
まれています。なぜなら、その場で翌  
年の副会長の任を受けたからです。  
さらに、その翌年には部会長に推さ  
れ、お受けすることになりました。右も  
左もわからない若造をよく推せたなど、  
いまだに疑問を抱かずにはいられ  
ません(笑)。

——7代目の活動期間でもっとも大き  
なトピックと言えば?

多賀谷:それは「メンバー同士が仲良  
くなった」という言葉に尽きるのでは  
ないかと、自分では考えています。私  
は部会長として「メンバーがビジネス  
でどのようにつながれるのか、どのよ  
うに社業を伸ばしていくのか」とい  
うことに重きを置いていましたから。

——続いて、8代目の高野歴代にお聞  
きします。2019年度の部会長には、  
どのような経緯があって就任されたの  
でしょうか。

第8代 高野正人(以下、高野):2014  
年度に私がLOMで専務をしていたと  
き、JCI日本で副会頭をされていた笹  
島さんとお会いして、環境部会入りを  
勧められました。私は卒業が2019年  
で、その年度に関東地区の副会長を務  
めています。1月の京都会議に向かう  
新幹線のシートで「最終年は絶対に  
やってやるぞ!」という強い決心のも  
と、これから始まる会議の議題を再確

認していました。そのときに笹島大先  
輩からの電話が鳴ったのです。「とり  
あえず、返事をしてくれ」とのこと  
で、私はわけもわからずに「はい」と答  
え、その後聞こえてきた言葉が、「よし  
、お前はこれから環境部会の会長だ!  
」というものでした……。

——初代から5代目までの部会長が集  
まった座談会においても、部会長就任  
に至るまでの裏話と言いますか、伝説  
的なストーリーを聞かせていただき  
ました。藤井歴代の場合は誕生日の夜  
に突然、紺野歴代が東京から上越まで  
お酒を抱えて押しつけてきて、ひたす  
ら口説かれたとか……。そのストー  
リーにも劣らない熱い話ですね。

高野:そうですね……。そして、「すま  
ないけれども、もうお前は部会長だか  
ら、新幹線に乗っている間にスローガ  
ンと事業計画と組織図をつくってく  
れ!」と言われました。

——高野歴代は、東京駅から京都駅に  
向かっていた途中で電話を受けたの  
ですよね? それは、名古屋駅のあたり  
でしたか?

高野:いえ、もう少し手前でしたね。

——それが、笹島初代の優しさだった

のでしょうか。

高野:そうですね……。そして、新幹線  
の中から電話をかけまくって組織図ま  
で作りまして、京都会議の業種別部  
会の総会に乗り込んで「私が環境部  
会の部会長です!」という挨拶をしたの  
が、部会長就任の顛末になります。

多賀谷:あれは、京都のミスタードーナ  
ツでしたっけ?

高野:いえ、モスバーガーですね。多賀  
谷さんとお会いしてコーヒーとプレジ  
デンシャルリスをいただいたのは。

三峰:実は、初代から7代目までの誰か  
がもう一度、部会長になるというプラン  
もあったのですが、やはり現役の  
JAYCEEから部会長を出したい……。  
高野さんは2016年にLOMで理事長  
も務めていて、部会長に適任だとい  
うことで……。



ベトナムにて同国環境大臣と(2019)



“5周年を区切りとしてそこからは  
より外部との連携を模索しました”(三峰)

“ベトナムでの海外ミッションで  
環境大臣との面談は緊張しましたね”(高野)

“青年会議所で培った巻き込み力で  
多くの機関との関係を構築できました”(多賀谷)



“今ではコロナ禍があったからこそ  
部会長を2度やれて  
よかったと思います”(藤井)

“コロナ禍の終わりが見えないなか  
試行錯誤を繰り返し  
新たな活動の形を模索しました”(永井)

**高野:** 私としては、そのような顛末で自分を選んでいただいたことで、逆に燃えました。そのため、前年までは2~3ヶ月に一度の頻度だった事業を、もう毎月のように行っていました。海外ミッションではベトナムに行きましたね。

**第9・10代 藤井映規(以下、藤井):** ベトナムの環境大臣とお会いして、現地のテレビ局からの取材を受けたりしました。



### 「全速前進」のはずがコロナ禍に

—それでは、次に藤井歴代のストーリーを聞かせてください。

**藤井:** 2013年にわけもわからず地元の先輩に連れられて仙台で開催された総会に参加して、そのまま入会させていただいたのが、私と環境部会の馴れ初めです。その先輩というのが、先ほども就任に至るまでの伝説的なエピソードの一例として名前が挙がっていた第3代部会長の藤井(浩幸)さんです。自分の親戚でもあります。先輩が部会長になった2014年に自分は事務局長を務めています。

—2013年から環境部会を知っている藤井歴代は、組織の変化や成長

をどのように体感してこられたのでしょうか。

**藤井:** 例えば、5周年のときに私は専務でしたが、そのころには「とんがった事業をやっつけていこう。どの部会よりも目立った動きをしていこう」という思いがみんなに共有されていたと思います。それは、今でも環境部会のカルチャーとして根づいているのではないのでしょうか。今、振り返ってみても、私は錚々たる先輩方の背中を見ながら環境部会の活動をしていくことが本当に楽しかったですね。私先輩方から言われ続けてきたのは、「この環境部会にはフルコミットしろよ。そうすれば学びがあるし、見えてくる世界が必ずあるから」ということです。

—そうした学びを積み重ねてきた後に藤井歴代は第9代の部会長になりましたが、その2020年はコロナ禍がスタートした年でもありますね。

**藤井:** 2月の総会をクリアした後、翌週にあったベトナムでの海外ミッションまではギリギリで強行できています。その年のスローガンは「全速前進」でした。せっかく「今年は盛り上がっていくぞ!」という空気が醸成されていたのに、3月以降は事業ができない状況

になってしまいました。そうしたなかでも、組織として何かできないかという想いで、不足していたマスクの手配などに奔走していました。ZOOMを活用したりしながら、青年会議所自体のあり方や活動の意義など、あらゆることを問い直していく時間が続きましたね。

—そして、翌年も続いて第10代の部会長を務めることになりました。

**藤井:** 当然と言えば当然なのですが、コロナ禍で次年度の部会長になりた人がなかなか出てこない状況で、それでも環境部会を回していかなければならない……。私は2020年が卒業年だったのですが、特例として部会長を続けることになりました。2020年に何もできなかったことが悔しくて、最終的には自分から「2021年もやらせてください!」と言いましたね。その2021年は、最初からコロナ禍ありきで物事を考えていきました。総会もオンラインで開催しています。スローガンは「勇剛邁進」にしました。

**三峰:** こんなことを言ったらなんですけど、コロナ禍以前にも力強くみんなを引っ張ってくれていた上越の人間が、あのタイミングで部会長でいてくれてよかったと私は思っています。

**多賀谷:** 当時は、すべてが悪とされましたからね。移動することが悪、人と何かをすることが悪。でも、それが青年会議所なんですよね。はるばる移動した先で、人と膝をつき合わせて会話して、ともに手を取り合って事業を行っていく。それをすることでしか成長してこられなかったのに、すべてが悪とされて。本当にもどかしかったですよね……。



コロナ禍でのZOOM総会(2020)

**第11代 永井慎太郎(以下、永井):** 2021年当時、私は副部会長を務めていて連絡調整役となるが多かったのですが、歯がゆい連絡をすることはばかりが続きました。

**藤井:** 2021年の10月に行う予定だった環境部会10周年の記念式典も中止になりましたからね……。

**永井:** 私は周年の担当委員会でもありましたから、ホテルとの折衝も行っていました。どこのホテルからも「今の時世で人を集めるのは勘弁してください!」と断られましたよ。



### ようやく明るい未来が始まった

—そのような2年間の後、藤井歴代はどのような想いで永井歴代に部会長のバトンを渡したのでしょうか。

**藤井:** やり残したことだらけだったので、「これからもフルコミットしていく」という気持ちが強かったですね。もちろん、永井部会長のサポートは全力でさせてもらおうし、自分が出られるところは全部出ると……。

**永井:** 続く2022年には、「Produce new energy」というスローガンを掲げました。新しいエナジーをつくり出すことにより、何かが始動、起動するような年にしたいと考えたからです。人数は多くなくてもいいから、少しず

つでも動いていかないとダメなんじゃないかという想いをみんなで共有してからスタートしましたね。ハードルを下げるわけではないのですが、参加しやすいところから間口を開いていくといった工夫も取り入れていきました。そのようにして通常の軌道に戻していきながら、あとはなんとでも10周年の記念式典を開催したいと考えていました。その場に藤井部会長を立たせたいという思いが強かったですね。しかし、「式典に行きたくても、まだ会社として許可が出ない」といったメンバーの事情もあつたりすることが重なり、結局は開催には至りませんでした。当時の早野専務にも大変な苦勞を味わわせてしまいました。

—しかし、なんとか北海道での事業は行うことができましたね。さらには海外ミッションも再開し、タイのバンコクに行きました。永井歴代からお誘いいただき、私も渡航しています。

**永井:** 次年度につなげていくためにも、早野君には少し無理を言って海外ミッションに同行してもらいました。

**藤井:** 第12代の早野君に関しては、環境部会に入ってくる前から「すごいやつがいるんだ。彼を環境部会に入れたいんだ」という話を業種別部会連絡会議の議長から聞いていましたからね。今では、上越で開催している花見にも



北海道での定例会(2022)

来てくれる仲間になっています(笑)。

**第13代 川淵公太(以下、川淵):** 2023年の夏は高知のよさこいにも参加してくれて一緒に踊りましたし、私の家にも泊まっていただきました。早野さんのフットワークは、とてつもなく軽いですよ(笑)。

**三峰:** そういう踊りや泊まりの流れもありながら、部会長のバトンが次代へとつながっていくわけですね。

**多賀谷:** 移動し、会話し、ともに手を取り合う。そうした日常がようやく2023年には戻ってきましたからね。2024年への期待も高まるばかりです。

**川淵:** 今、環境部会には150名を超えるメンバーがいます。コロナ禍を経たメンバーにアンケートを行い、現在の環境部会には何が求められているのかについて細分化して理解し、事業を組み立てていきたいと考えています。

**三峰:** 環境部会でしか味わえない体験や出会いができるのもっと参加率が上がってくるのではないかと思います。時間・場所・予算などのさまざまな制約のなかで難しいこともありますが、コロナ禍を正面から乗り越えた環境部会なら、2024年はきっと大きく前進できるはずですよ。

**藤井:** 環境部会にはLOMでは経験できないことが待ち受けています。環境部会ならではのスケールメリットもあります。志を同じくする仲間と一緒に、これからもそれらを思いっきり感じていけたらいいですね。

“今回すべての歴代部会長に参加いただき本当にありがとうございました!”(早野)

“コロナ後の環境部会の進化をこの場を借りてお約束します!”(川淵)



# 2017-2022

# 歴代部会長プロフィール

①会社名・役職 ②所属していたLOM ③出向歴などのJC活動歴 ④座右の銘  
⑤趣味 ⑥好きな○○ ⑦環境部会の後輩へメッセージ



001  
SASAJIMA Junya



002  
KONNO Takuo



003  
FUJII Hiroyuki



004  
SAITO Takashi

**初代 笹島 潤也** ささしま じゅんや  
 ①行政書士 笹島総合事務所 代表  
 ②JCI東京  
 ③JCI日本「凜然とした誇りある国家創造会議」議長(2012) / JCI東京 理事長(2013) / JCI日本 副会長(2014) / JCI日本 顧問(2015)  
 ④「人の喜びを喜び、人の悲しみを悲しむ。」  
 ⑤ウェイクボード / ウェイクサーフィン / カラオケ / 美容  
 ⑥好きなアクセサリ:シルバークセサリー(研究を含む)  
 ⑦部会は、私「修練」「奉仕」「友情」の先にある「ビジネス連携の礎」で、JC活動を頑張ってきた人だからこそ得られる「特別なボーナス」だと思っています。自らが楽しみながら部会活動を行い、ぜひ若いメンバーをお誘い合せてのうえ、今後の環境部会の発展に繋がっていただくことを願ってやみません。

**第7代 多賀谷 兵馬** たがや ひょうま  
 ①株式会社イオス 代表取締役  
 ②JCI福岡  
 ③JCI福岡 副理事長(2019)  
 ④「悩むな、動け。ひとは経験することでしか成長しない。」  
 ⑤ゴルフ / ボディデザイン  
 ⑥好きなアーティスト:THE BLUE HEARTS  
 ⑦環境部会が一番の宝物となったのはやはり仲間です。会社運営や社員教育、新規事業で悩んだとき、周りに目をやれば、同じことで悩み続いているメンバーがいます。その仲間と力を合わせ挑戦していけば、必ず解決の糸口が見つかるはず。そんな仲間を見つければ、そのことこそが環境部会の最大の価値ではないでしょうか。

**第2代 紺野 琢生** こんの たくお  
 ①株式会社三栄サービス 代表取締役  
 ②JCI東村山  
 ③JCI東村山 理事長(2009) / 東京ブロック協議会 副会長(2011-2012) / JCI日本「領土・領海委員会」委員(2013)  
 ④「切磋琢磨」  
 ⑤ゴルフ / ドライブ / 旅行 / スナック巡り  
 ⑥好きな車の部位:イカした旧車の三角窓  
 ⑦JAYCEEとしての本業(JC活動)を優先して頑張っていたが、部会では「環境」というキーワードで結びついた同業者や近い業種の方々と交流のなかで研鑽を積み、また、ビジネスでの交流も深めていただければと思います。

**第8代 高野 正人** たかの まさと  
 ①株式会社まごころ清掃社 代表取締役  
 ②JCI八王子  
 ③JCI八王子 理事長(2016) / 関東地区協議会 副会長(2019)  
 ④「やるか、もっとやるか」  
 ⑤人に喜んでもらうことを考え、行動すること  
 ⑥好きなイベント:自身を高める講義や講演  
 ⑦どんどん積極的に交流してください。仕事の連携も共有できるように、SNSなどを立ち上げ、活用して、情報の公開をお願いします。



005  
ONTA Kenji



006  
MITAKA Shigeki



007  
TAGAYA Hyoma



008  
TAKANO Masato

**第3代 藤井 浩幸** ふじい ひろゆき  
 ①株式会社エコシステム 代表取締役社長  
 ②JCI上越  
 ③JCI日本「真の経済活動探求委員会」委員長(2009) / JCI上越 理事長(2012)  
 ④「やってみせ、言ってみせ、させてみて、ほめてやらねば人は動かじ」  
 ⑤旅行 / 課金ゲーム  
 ⑥好きな酒の席:仲間と酒宴(深酒)  
 ⑦私の現役時代はビジネスの話や交流は厳しく制限されていましたが、環境部会ではそういった縛りは一切ありません。同じ業界に身を置くものとして大いに人脈と見識を広め、技術や可能性に理解と知識を深め、社業に生かし、繋がる活動・運動を展開して欲しいと考えています。

**第9・10代 藤井 映規** ふじい あきのり  
 ①株式会社エコスタッフ 専務取締役  
 ②JCI上越  
 ③環境部会 事務局長(2014) / 北陸越前地区協議会「金沢大会 支援委員会」委員(2015) / 新潟ブロック協議会 委員(2016) / JCI上越 副理事長(2019)  
 ④「刻石流水」  
 ⑤筋トレ / ドライブ / ウェイクボード / 旅行  
 ⑥好きな筋肉:上腕二頭筋  
 ⑦環境部会の活動を通じて、そのスケールメリットを感じてほしいです。私は全国の仲間と交流することで、新たな視野を届け、自身の成長にもつながることができました。環境部会での思い出をたくさんつくり、グローバルな視野をもちながら地域の環境問題に取り組んでください。頑張ってください!!

**第4代 齋藤 孝志** さいとう たかし  
 ①株式会社サイコー 代表取締役  
 ②JCI仙台  
 ③JCI仙台 理事長(2011) / 宮城ブロック協議会 会長(2012)  
 ④「道徳なき経済は犯罪であり、経済なき道徳は寝言である」  
 ⑤スキー / バダイビング / ゴルフ  
 ⑥好きなお酒:やっぱりワイン  
 ⑦環境部会は設立から関わらせていただいています。当初は廃棄物・リサイクル部会の構想をしておりましたが、協議の結果、幅広く環境を保全する仲間が集うべく環境部会となりました。今後も処理事業者に偏ることなく多くの仲間が集う部会になってもらうとありがたいです。

**第11代 永井 慎太郎** ながい しんたろう  
 ①有限会社府中衛生社 専務取締役 / 株式会社MS 専務取締役  
 ②JCIむさし府中  
 ③東京ブロック協議会 委員(2016) / 関東地区協議会「硫黄島訪島事業 東京都災害対応防災会議」委員(2016) / JCIむさし府中 理事長(2021)  
 ④「率先垂範」  
 ⑤ゴルフ / スキー / 乗馬 / 旅行  
 ⑥好きなアイドル:LISA (BLACK PINK)  
 ⑦青年会議所で学ぶことを基礎とし、事業を通じて自己研鑽と自己成長を体験してきました。部会はLOMとは違い、多種多様な方に出会える魅力と、人生の視野を広くすることが可能です。今後、環境部会で活躍される皆様の活動を楽しくしつつ、私自身も負けないよう精進します。ともに、成長をしましょ!!



009・010  
FUJII Akinori



011  
NAGAI Shintaro



012  
HAYANO So



013  
KAWABUCHI Kouta

**第5代 恩田 健次** おんた けんじ  
 ①フィズ環境株式会社 代表取締役社長  
 ②JCI鶴岡  
 ③JCI鶴岡 理事長(2008) / 山形ブロック協議会 副会長(2012-2013) / 東北地区協議会 副会長(2014) / 山形ブロック協議会 会長(2018)  
 ④「終わりなき「恩」のやりとり」  
 ⑤ゴルフ / ゴルフ道具の知識・情報収集 / チワワとの生活  
 ⑥好きな犬:チワワ、チワワ、チワワ!  
 ⑦青年会議所という組織はこれからは各地域に必要です。知恵を出すには多くの知識も学ばなければなりません。そしてその組織の歴史を学ぶことも大切だと思います。環境部会は発足から10年以上多くの歴史を積み上げてきました。環境部会には青年会議所で活躍された兵が多々います。これからの部会の経験と人脈をLOM運営や商売につなげていってください。

**第12代 早野 壮** はやの そう  
 ①尾北環境分析株式会社 代表取締役  
 ②JCI江南  
 ③東海地区協議会「愛知ブロック協議会大会 江南大会実行委員会」委員長(2019) / JCI日本「JCブランド確立会議」副議長(2020)  
 ④「変化と継続」  
 ⑤筋トレ  
 ⑥好きなBBQ:アメリカンスタイル!  
 ⑦青年会議所では、奉仕の気持ち、修練による成長、それらの結果からもたらされた友情が得られ、部会では、その友情に裏打ちされた信頼と信頼からなる確かなビジネスが得られます。全国各地の青年会議所で得た成長を糧に、環境部会でもともに夢を現実化しよう!

**第6代 三峰 誠植** みたか けいじ  
 ①株式会社三峰環境サービス 代表取締役  
 ②JCI水口  
 ③JCI日本「OMOIYARIネットワーク委員会」委員(2012) / JCI日本「規則審査会議」会計幹事(2014)  
 ④「明日は明日の風が吹く」  
 ⑤簡単なプログラミング  
 ⑥好きな競走馬:オグリキャップ  
 ⑦環境省等の国の政策に実際に関わる人たちと出会い、話を聞ける組織は、ほかにあまりないと思います。沢山の人々を巻き込み、一丸となって環境問題の解決をリードしていただけるような活動を期待しています。

**第13代 川淵 公太** かわぶち こうた  
 ①ヤツテ・ファクトリー株式会社 代表取締役  
 ②JCI高知  
 ③JCI日本「サマーコンファレンス委員会」委員(2017) / 高知ブロック協議会「高知ブロック大会実行委員会」委員長(2022)  
 ④「成せば成る」  
 ⑤ゴルフ、旅行  
 ⑥好きな車:モテそうな車  
 ⑦2019年に初めて環境部会の事業に参加したとき、当時の高野部会長がキレイな飛び蹴りを受けていたのが今でも鮮明に思い出されます。とても痛そうでした。そんな楽しい部会なので、積極的に事業に参加し、ぜひ部会長を目指していたらいいと思います。2024年は皆様が求めている環境部会を目指して運営を進めてまいります。

北陸・信越 新潟県・富山県・石川県・福井県・長野県

Name	LOM	Name	LOM	Name	LOM
青木 健	新潟/JCI上越	新保 敬義	新潟/JCI上越	松田 卓也	新潟/JCI上越
池上 裕平	長野/JCI伊那	杉田 誠	新潟/JCI上越	松本 兼進	富山/JCIとなみ
池田 典聡	新潟/JCI上越	善宝 晋場	新潟/JCIにいがた北	森 弘吉	富山/JCI富山
片山 良博	新潟/JCI糸魚川	瀧澤 但	新潟/JCI上越	矢澤 洋二	新潟/JCI上越
木島 敏幸	新潟/JCI上越	武田 洋和	新潟/JCI上越	山崎 貴行	新潟/JCI上越
北原 悠二郎	長野/JCI諏訪圏	得能 貞雄	新潟/JCI上越	山田 重孝	新潟/JCI上越
桑原 直樹	新潟/JCI上越	名取 哲男	長野/JCI諏訪圏	山村 智政	長野/JCI長野
小池 貴宏	新潟/JCI上越	藤井 映規	新潟/JCI上越	山本 建太	富山/JCIとなみ
小嶋 宏志	新潟/JCI上越	藤井 浩幸	新潟/JCI上越	渡邊 章	新潟/JCI上越
小寺 裕	新潟/JCI上越	増田 喜一郎	福井/JCI福井	渡辺 一生	新潟/JCI上越

中国

鳥取県・島根県・岡山県  
広島県・山口県

Name	LOM
大前 慶幸	広島/JCI広島
小川 貴広	広島/JCI府中
沖本 頼政	広島/JCI広島
金村 英俊	島根/JCI出雲
北田 佳嗣	広島/JCI三原
瀧川 洋一	広島/JCI広島
中島 浩	山口/JCI宇部
中野 竜太	広島/JCI三原
山田 太	広島/JCI広島

近畿

大阪府・京都府・兵庫県・奈良県・  
和歌山県・滋賀県

Name	LOM
青野 昌悟	兵庫/JCI伊丹
中島 正剛	和歌山/JCI御坊
西村 忠浩	滋賀/JCI草津
張本 昌義	京都/JCI亀岡
平尾 道哉	大阪/JCI八尾
廣田 幹雄	奈良/JCI橿原
前地 光洋	和歌山/JCI新宮
三峰 誠植	滋賀/JCI水口
三吉 勉	滋賀/JCI水口
村田 泰志	兵庫/JCI淡路

四国

徳島県・香川県・愛媛県・高知県

Name	LOM
旭 浩司	徳島/JCI徳島
天野 隆章	愛媛/JCI松山
石原 英伸	香川/JCIさぬき
今城 靖浩	愛媛/JCI松山
岡崎 優	高知/JCI高知
岡本 光平	高知/JCI南国
川淵 公太	高知/JCI高知
小塚 啓太	香川/JCIさぬき
田井 祐如	高知/JCI高知
津野 将志	高知/JCI高知
武下 直樹	香川/JCIさぬき
丹生 兼嗣	香川/JCI小豆島
三木 康弘	徳島/JCI徳島
和喰 一泰	高知/JCI高知

九州

福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県

Name	LOM	Name	LOM
有光 麻美	福岡/JCI福岡	中野 雄将	福岡/JCI福岡
石田 有志	福岡/JCI久留米	長峰 秀幸	熊本/JCI熊本
石橋 建三郎	佐賀/JCI佐賀	難波江 武彦	宮崎/JCI宮崎
岩野 公志	鹿児島/JCI指宿	深田 良介	福岡/JCI飯塚
江崎 正徳	佐賀/JCI佐賀	藤崎 貴介	福岡/JCI八女
上村 一	宮崎/JCI都城	山下 唱徳	大分/JCI別府
小柳 敬寛	佐賀/JCI佐賀	吉浦 俊次	福岡/JCI飯塚
多賀谷 兵馬	福岡/JCI福岡	渡邊 雅夫	佐賀/JCI佐賀
詫磨 康雄	大分/JCI別府		

沖縄

Name	LOM
北角 治太	沖縄/JCI那覇



北海道

Name	LOM	Name	LOM
伊藤 好男	北海道/JCI帯広	藤本 誠司	北海道/JCI千歳
毛笠 史寛	北海道/JCI白老	道上 仁	北海道/JCI札幌
駒谷 僚	北海道/JCI札幌	本村 信人	北海道/JCI千歳
佐藤 光展	北海道/JCI札幌	山本 康二	北海道/JCI苫小牧
時田 真一	北海道/JCI函館	矢元 充	北海道/JCI札幌
丹羽 智久	北海道/JCI白老		

青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県 東北

Name	LOM	Name	LOM
五十嵐 由浩	山形/JCI鶴岡	仙北 直樹	秋田/JCI大曲
恩田 健次	山形/JCI鶴岡	富樫 勝好	山形/JCI鶴岡
片桐 一樹	山形/JCI天童	西田 文豪	青森/JCI青森
工藤 大地	青森/JCI八戸	沼田 隆	宮城/JCI仙台
紺野 道昭	福島/JCI福島	藤原 譲	秋田/JCI大曲
齋藤 孝志	宮城/JCI仙台	元木 豊	山形/JCI東根
齊藤 靖之	秋田/JCI大曲	山田 和広	宮城/JCI仙台
齋藤 嘉章	宮城/JCI泉	横尾 尚志	山形/JCI上山
笹垣 大蔵	青森/JCI八戸	渡部 芳幸	山形/JCI鶴岡
鈴木 伸彌	宮城/JCI仙台		

茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・山梨県 関東

Name	LOM	Name	LOM
安達 優也	東京/JCIあきる野	高野 正人	東京/JCI八王子
伊藤 海	東京/JCI東京	田口 善久	東京/JCI東京
伊東 博幸	茨城/JCI土浦	田中 康之	東京/JCI八王子
遠藤 純	東京/JCIむさし府中	寺原 拓志	東京/JCI東京
小川 竜太	東京/JCI狛江	戸部 智史	東京/JCI東京
乙幡 この実	東京/JCIあきる野	永井 慎太郎	東京/JCIむさし府中
梶原 良介	東京/JCI調布	中山 拓海	東京/JCIむさし府中
糟谷 敏美	東京/JCI日野	根崎 基	神奈川/JCI横浜
川瀬 典宏	神奈川/JCI川崎	野崎 博行	埼玉/JCI埼玉中央
木村 雅生	東京/JCI東京	星野 太一	埼玉/JCI東入間
木村 光範	東京/JCI東京	堀田 和宏	東京/JCI清瀬
木暮 巧	埼玉/JCI深谷	松浦 孝治	東京/JCI立川
小峯 充史	東京/JCI調布	三原 将純	東京/JCI東京
紺野 琢生	東京/JCI東村山	山口 正和	東京/JCIむさし府中
齋藤 貢一	神奈川/JCI横浜	山下 雅章	東京/JCI東久留米
笹島 潤也	東京/JCI東京	劉生 琢行	東京/JCI立川

五十音順

東海

静岡県・愛知県・岐阜県・三重県

Name	LOM
大島 康平	愛知/JCI丹羽
岡山 優	愛知/JCI名古屋
加藤 武功	愛知/JCI名古屋
河村 直樹	愛知/JCI名古屋
倉地 徹馬	愛知/JCI江南
都世子 翔太	愛知/JCI名古屋

Name	LOM
中村 真悟	愛知/JCI名古屋
早野 壮	愛知/JCI江南
平野 伸弥	愛知/JCI海部津島
南村 将太郎	愛知/JCI江南
森 真悟	愛知/JCI名古屋
安田 優	愛知/JCI名古屋